

宇都宮市立宝木小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.5	69.6	68.7
	量と測定	73.5	72.8	72.0
	図形	78.4	77.8	78.0
	数量関係	70.2	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	59.2	56.3	54.2
	数量や図形□についての技能	72.8	72.7	72.0
	数量や図形□についての知識・理解	77.6	78.2	78.1

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「同分母のたし算」の正答率は93.1%と高く、よく理解している。 ●かけ算の桁数が増えると、正答率が54.2%と低くなってしまっている。 ●大きい数・小数・分数に関する問題の理解が不十分である。特に、「数直線上に示した分数の表し方」については、正答率が51.9%となっている。また、「相対的な大きさ」については、県平均を7.1ポイント下回っている。	・位が揃っていないと、間違っているものが見受けられた。マス目が無い場合も位を揃えて計算するように助言しながら、問題演習を行っていく。 ・数直線を多く取り入れ、相対的に数量の大小関係を理解できるように指導していく。
量と測定	○分と秒の単位の関係、kmとmの関係については、正答率がそれぞれ90.1%、92.4%と高く、よく理解している。 ●「電車とバスの乗車時間を求め、比較する」という問題の正答率は36.6%と低く、理解が不十分である。 ●「身近な物の重さを推察する」という問題の正答率は68.7%とやや低い。	・基本的知識はあるが、応用問題に生かすことが不得手である児童が多く見受けられるので、応用問題を数多く取り入れ習熟を図っていく。 ・身近な物の重さを予想したり、実際に計ったりして、実生活に生かすことができるようにしていく。
図形	○「円の直径について理解しているか」を問う問題の正答率は90.1%と高く、よくできている。 ●三角形の作図問題の正答率は、県平均を0.9ポイント、市平均を1.5ポイント下回っている。	・作図の書き方の練習を多く取り入れ、コンパスや分度器の扱い方を含め、正しい知識の習得を図る。
数量関係	○「わり算の文章問題を表した図を理解しているか」を問う問題の正答率は、県平均を8.0ポイント、市平均を2.3ポイント上回っている。 ●「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ」という問題の正答率は、県や市の平均を上回っているものの、37.4%と低く、理解が不十分である。	・引き続き文章問題の演習を多く取り入れ、文章から立式できるようにするとともに、どのような場面でどの式を使えばよいかなどを助言していく。 ・□を使って立式することに対して苦手意識があると思われるので、ドリルや練習プリントなどを活用して繰り返し練習させ、□を使った式を使って立式し、解けるようにしていく。